

授業科目(ナンバリング)	芸術論 (AB111) (実践的教育科目)			担当教員	※松下 久子 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
芸術とは何か、何のためにあるのか、どんな歴史をたどってきたのか、これから何処へ向かっていくのかという問題意識のもと、芸術の存在意義や芸術作品について理解を深める。芸術作品の鑑賞やディスカッション、学生によるプレゼンテーションを通して感性を鍛え、事物の本質を見極める力を養い、自身の専門領域に活かすことができる人材に育つことをねらいとする。							①②③⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	芸術に関する基本用語を理解し、芸術作品の趣旨や内容を説明することができる。				課題レポート	30%	
情報収集、分析力	様々な芸術活動に関する情報を集め、興味をもった芸術作品の鑑賞を通して、その作品を批評することができる。				プレゼンテーション	10%	
コミュニケーション力	芸術作品や展覧会について、自分なりの感想を述べ意見交換をすることができる。				受講態度 授業への参加度	10% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	異なる時代や地域における文化の違いが芸術作品にも現れていることを理解し、文化や価値観の違いによる芸術活動の多様性について説明することができる。				課題レポート	40%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>評価は、課題レポート 70%、プレゼンテーション（意見発表） 10%、受講態度 10%、授業への参加度 10%の配分で行う。</li> <li>課題レポートでは、第 15 回目の講義終了後にそれまでの授業内容に関する課題を問う。芸術活動の歴史や芸術表現の本質について理解し論述できるかを評価基準とする。</li> <li>課題レポートのフィードバックについては、ポートフォリオでおこなう。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>芸術は、人類の長い歴史とともに歩んできた。その誕生から変遷・発展していく様子を、国内外の主要作品を通して概説する。学芸員として美術館・博物館での実践的な鑑賞教育の取り組みを活かし、作品の芸術性や芸術表現の本質について受講生とともに考える。主にあつかう分野は、プリミティブ・アート、彫刻、建築、文芸、服飾、絵画、工芸、現代アートである。授業は、パワーポイントを使用した講義形態とするが、適宜受講生の意見や感想を求める。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に定めない 参考書：授業内で指示する 指定図書：アラン著・長谷川宏訳「芸術論 20 講」（古典新訳文庫）光文社 2015 年</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>展覧会やコンサートホール、劇場などで一流の芸術作品に接する機会をつくり、芸術の良さや楽しさを体感してもらいたい。たまには、いつもと違うジャンルの文学や音楽、映画、美術などに触れたり、チャレンジしてみること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	導入	芸術について考える上で必要な基礎的知識と用語について解説する	芸術関連用語についての復習とプリミティブ・アートについての予習
2	プリミティブ・アート	原始美術、部族社会の美術について概説し、代表的な作品を通して芸術活動の本質について考える	プリミティブ・アートについての復習と西洋彫刻についての予習
3	彫刻（1）	西洋彫刻の実例と時代背景を概説し、西洋彫刻の芸術的特質について考える	西洋彫刻についての復習と日本彫刻についての予習
4	彫刻（2）	国内に現存する彫刻作品と時代背景を概説し、日本における彫刻芸術の特質について考える	日本彫刻についての復習と西洋建築についての予習
5	建築（1）	海外の建築物の実例と時代背景を概説し、西洋における建築芸術について考える	西洋建築についての復習と日本建築についての予習
6	建築（2）	国内に現存する建築物の実例と時代背景を概説し、日本における建築芸術について考える	日本建築についての復習と文芸についての予習
7	文芸	詩や小説、書など文芸作品の実例を概説し、その芸術性について考える	文芸についての復習と服飾史についての予習
8	服飾	西洋と日本の服飾史における衣装や装身具の変遷について概説し、その芸術性について考える	服飾史についての復習と西洋絵画についての予習
9	絵画（1）	西洋絵画の代表的な作例と時代背景を概説し、西洋における絵画作品の芸術性について考える	西洋絵画についての復習と日本絵画についての予習
10	絵画（2）	日本絵画の代表的な作例と時代背景を概説し、日本における絵画作品の芸術性について考える	日本絵画についての復習と陶芸についての予習
11	陶芸	陶磁器を素材にした芸術表現について概説し、その芸術性について考える	陶芸についての復習と漆芸についての予習
12	漆芸	日本と中国を中心に発達した漆工表現について概説し、その芸術性について考える	漆芸についての復習と芸術作品の多様性についての予習
13	芸術作品の多様性	芸術作品の多様性について概説する。受講生は、自身が興味をもった作品についての情報収集と分析をおこない、プレゼンテーション資料を作成する	多様な芸術作品についての復習とプレゼンテーションの準備
14	プレゼンテーション（意見発表）	受講生が情報収集・分析した作品について、一人ずつプレゼンテーションをおこない、意見交換を実施する	プレゼンテーションについての復習と現代アートについての予習
15	現代アートとまとめ	国内外の芸術家による現代アートの代表的作例を通して、芸術表現の現在を知り、これからの芸術の行方について考える	現代アートについての復習と課題レポートの準備